

土木学会の広報イベントの現状分析と高校生を対象としたイベントの方向性

田中 捺紀¹・関 文夫²

¹学生会員 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻
(〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 3-11-2 E-mail: csna21018@j.nihon-u.ac.jp)

²正会員 工博 日本大学理工学部土木工学科
(〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 3-11-2 E-mail: seki.fumio@nihon-u.ac.jp)

近年の建設業界では、若手の担い手不足が深刻な問題となっている。この背景には、土木の3Kと呼ばれる「キツイ・汚い・危険」の3要素の悪いイメージが昔から強く根付いているため、建設業を希望する若者が少ないということがあげられる。また、一般的に土木に対する理解があまり広まっていないため、建設業界に興味を持つ人が少ないとされる。

このような課題を解決するために重要となるのが、「広報活動」であると考え。本研究では、土木学会の広報活動におけるイベントについて調査、分析し、高校生を対象にしたイベントの方向性を提案することで、建設業界を希望する若手を増加させるきっかけをつくることを目的とする。

キーワード: 広報, イベント, 土木広報センター, 土木広報大賞, 高校生

1. はじめに

近年の建設業界では、若手の担い手不足が深刻な問題となっている。この背景には、土木の3Kと呼ばれる「キツイ・汚い・危険」の3要素の悪いイメージが昔から強く根付いているため、建設業を希望する若者が少ないということがあげられる。また、一般的に土木に対する理解があまり広まっていないため、建設業界に興味を持つ人が少ない。また、全国的に高校生の人口が減少していることに加え、大学における土木工学科の受験者数も減少傾向にある。このような課題を解決するために重要となるのが、「広報活動」であると考え。

そこで本研究では、土木学会の広報活動におけるイベントについて調査、分析し、高校生を対象にしたイベントの方向性を提案することで、建設業界を希望する若手を増加させるきっかけを作ることを目的とする。

2. 調査内容

(1) 調査対象の選出

国内有数の工学系団体である土木学会は、「土木工学

の進歩および土木事業の発展並びに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目指し、以下の三つを活動の柱として、さまざまな活動を展開している。

- ①学術・技術の進歩への貢献
- ②社会への直接的貢献
- ③会員の交流と啓発

また、2015年6月には、土木広報センターを設置し、土木界が一体となって取り組む広報の中核となるべく活動を行っている。2018年からは、暮らしを支えている土木の役割・意義・魅力について広報を行っている活動または作品などで他団体の模範となるもの、他団体への展開が期待されるものなどを取り上げ、顕彰することを目的として行う「土木広報大賞」(引用：<http://koho-taisho.jsce.info/>)を開催している。

2018年から2021年度に行われた「土木広報大賞」受賞作品の54件に加え、土木学会広報センターHP(引用：<https://www.jsce.or.jp/events>)、土木学会広報センター「土木i;どぼくアイ～土木の情報源～」(引用：<https://doboku.jp/node>)に掲載されている2018年から2021年度に開催された一般市民向け広報企画・イベントである18件の全72件を対象とし、分析を行う。(表-1)

表-1 分析対象イベントの一覧

No.	名称	主催	対象者	イベントの「開催内容」による分類						
				座学	体験	実験	見学会	フィールドワーク	ポスター・マップ	情報発信
1	防災の教訓伝承 先人の知恵や工夫を学ぶ『四国防災八十八話マップ』	四国防災八十八話普及・啓発研究会	小中学生					○		△
2	橋梁実証見学イベント「かける北九州」～国内最大クレーンで「かける」瞬間を共有する～	川田工業株式会社 / 一般社団法人タタムドボク	市民(地域限定)				○			
3	土木の魅力発信「ドボクリップ～私がキリトル土木の未来～」	群馬県 県庁整備部 建設企画課 / 公益財団法人 群馬県建設技術センター	高校生(土木系)						○	
4	写真集、アプリ、書籍を活用した土木の魅力発信	寿建設株式会社	市民(一般)						○	
5	「土木クイズ“土木Q”」みんな土木のこと知ってる???	株式会社江口顧問フリープロジェクト	市民(一般)						○	
6	先端ITゼネコンへの実証を目指す「土木をコードで書きかえろ。」特設サイトと、鹿島が目指す土木の未来が体験できる「KAJIMA DX LABO」による一連のPR施策	鹿島建設株式会社	関係者向け・同業者向け						△	○
7	紀勢橋梁生誕祭2020 in 南南 ～橋にわがいを	紀勢橋梁生誕祭2020実行委員会	対象者なし				○			
8	清正公さん国づくり狂言 肥後・尾張	国づくり狂言プロジェクト実行委員会 / やまかわさとみ事務所	小中学生						○	
9	UNDER RIVER	大豊建設株式会社	市民(一般)			△				○
10	技術者向け工事記録を世界の人々に伝えたい「青函トンネル」から	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	マニア向け				△		○	
11	新たな発見!しまねインフラツーリズム in IWAMI	いわみインフラツーリズムガイド戦略会議	市民(一般)					○	△	△
12	ツナガルドボクの広報アイテム～ヘルメットクッキーと建設絵本～	ツナガルドボク	小中学生						△	○
13	絵本「どぼくのおしごと おだがわがいがいいん」	株式会社鹿本組	小中学生							○
14	SNS データ分析による若年層向け広報「ソカカツに聞け」「ドボクイズ」	国土交通省 九州地方整備局 広報プロジェクトチーム	関係者向け・同業者向け							○
15	担い手確保のための広報施策「IT'S NOTHING SPECIAL 当たり前をつくる。舗装をつくる。」	一般社団法人日本道路建設業協会	大学生(土木系)						○	
16	危機感を共有する合同記者会見～情報の伝え手と受け手の協働～	九州災害情報(報道)研究会	市民(一般)						○	
17	鉄道土木の安全・安心と魅力を発信	新建設株式会社	市民(地域限定)		○		△	△		△
18	土木広報大使「元気丸」による土木漫才での活動及びYouTube「元気丸チャンネル」	元気丸(株式会社オフィスまめかな)	マニア向け						○	
19	デミーとマツの土木広報大賞2020	鶴の土木応援チームデミーとマツ	小中学生						○	
20	SNSを活用した地域防災「ぐんけん見張るくん」	一般社団法人群馬県建設業協会	市民(一般)						○	
21	対話で創るドボクの未来	九州日東株式会社	工事・事業広報						○	△
22	東京地下ラボ(若者向け東京下水道発信事業)	東京都下水道局	大学生(土木系)	△		△	○			
23	春吉橋「賑わい空間」の試行イベント	国土交通省 九州地方整備局 福岡四国事務所	市民(地域限定)				△			△
24	首都圏外郭放水路のインフラガイド多言語音声アプリ及び 洪水疑似体験ARアプリ	国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所	工事・事業広報				○		△	△
25	土木人になるた	土木学会読書委員会・土木広報センター 土木リテラシー促進グループ	マニア向け			△				○
26	土木教育を通じた小中高生向け広報活動	日本大学工学部 土木工学科 コンクリート工学研究室	小中学生		○		△	△		△
27	「大阪国際女子マラソン」協賛を契機とした広報展開	株式会社 奥村組	会社広報						○	
28	「ヒロノジと字ぼう。」若手県立種市高等学校海洋開発科: 南部めぐり育成PRポスター	若手県立種市高等学校	小中学生					○	△	△
29	「大人の社会科見学 江戸東京・川のなげなせ舟めぐり～シビルエンジニアから聞く川にまつわる話～」および関連セミナー	株式会社 建設技術研究所	マニア向け				○	△		△
30	日本ダムアワード2018	日本ダムアワード選考委員会	マニア向け						○	
31	Discover Doboku -日本の土木再発見-	京都市大学 都市工学科 吉川研究室	マニア向け				△	△		
32	小島組100周年記念アニメーション『Grab Your Dream～現在・過去・未来』	株式会社 小島組	マニア向け						○	
33	風景創造計画「水辺で乾杯」	ミズバレープロジェクト事務局	工事・事業広報		△			△	△	○
34	静岡県防災的公園ガイド「CONPA」	一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会	工事・事業広報		△			△	○	△
35	ずべり面粘土を原料にした土のバステル「Dopas(ドパス)」による防災教育	国土防災技術株式会社	工事・事業広報	○	△			△		△
36	デミーとマツ応援したくなる土木広報	鶴の土木応援チームデミーとマツ	小中学生						○	△
37	鹿島建設企業広告「次の現場は、宇宙です。」の展開	鹿島建設株式会社	関係者向け・同業者向け						○	△
38	第二海陸上陸ツーリズム	国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 東京湾海陸ツーリズム機構	マニア向け					△	○	△
39	どぼくカフェ	フォーラム・シビル・コスモス(FCC)	マニア向け	○						△
40	CON! CON! 富士山の体積をはかる「アイデア」大募集!	一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会	会社広報							
41	フクワ土木土木(ドキドキ) デミーとマツの驚き土木体験イベント	鶴の土木応援チーム デミーとマツ	小中学生					○		
42	ツタワルドボク	一般社団法人 ツタワルドボク	工事・事業広報				○	△	△	△
43	やんばツアーズ	国土交通省 関東地方整備局 八ッ場ダム工事事務所	マニア向け				○			
44	「ドボク模型」により土木をわかりやすく伝える広報活動	(株) 藤井基礎設計事務所	小中学生			○	△			
45	市民の壁を打ち破り、土木が地域の未来をつくる。「静岡どぼくらぶ」	静岡県	工事・事業広報						○	
46	出島門橋架橋プロジェクト広報活動「DEJIMA AGAIN」	DEJIMA BASE・NEY & PARTNERS JAPAN	工事・事業広報					○		
47	土木系学生のためのコンクリートカヌー大会	公益財団法人 土木学会関東支部	高校生(土木系)							
48	福むらの火の舞台で世代を越えて伝わる津波防災への想い「広村堤防と津波祭」	和歌山県広町町	小中学生							
49	土木技術者を目指す女性のための就職支援冊子「Civil Engineer への扉 2017年版」	一般社団法人土木技術者女性の会	大学生(土木系)				△	△	○	
50	パンフレット「信州の土木 魅力のマップ」の発行と活用の取り組み	土木・環境しなの技術支援センター	対象者なし						○	
51	語りつく天竜川	国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	マニア向け							○
52	冊子『国道211号啓蒙の記録』	国土交通省 九州地方整備局 北九州国道事務所	工事・事業広報				○		△	
53	インフラツアーポイントガイド	国土交通省 東北地方整備局	対象者なし				△	○	△	
54	やまかわさとみ(山川里海)の新作狂言	やまかわさとみ事務所	小中学生		○					△
55	『今年の夏は、おうちで土木』～めざせ! 未来のどぼく博士!!～「がけ崩れから家族を守ろう」	公益財団法人土木学会 土木広報センター	小中学生	△		○				
56	『今年の夏は、おうちで土木』～めざせ! 未来のどぼく博士!!～「建物のゆれはどうちがう?」	公益財団法人土木学会 土木広報センター	小中学生	△		○				
57	『今年の夏は、おうちで土木』～めざせ! 未来のどぼく博士!!～「Q.O.」強いトンネルの形は?」	公益財団法人土木学会 土木広報センター	小中学生	△		○				
58	『今年の夏は、おうちで土木』～めざせ! 未来のどぼく博士!!～「どぼくカルタで“あいさつお”」	公益財団法人土木学会 土木広報センター	小中学生	△		○				
59	ドボコレミュージアム	公益財団法人土木学会 土木広報センター	マニア向け	○						
60	「土木の日シンポジウム2021」グリーンインフラと市民普請～自然のなかでいきる技術のあり方～	公益財団法人土木学会 土木広報センター	マニア向け							
61	【土木広報センター オンライン取材】「夏休み!ドボジョと橋をみてみよう」in いしおか	公益財団法人土木学会 土木広報センター	高校生(土木系)	△		○				
62	「土木の日シンポジウム2020」『持続可能な地域づくりにおける市民普請の可能性』	公益財団法人土木学会 土木広報センター	マニア向け	○						
63	【土木広報センター インタビュー】太田記念美術館展覧会 江戸の土木 一橋・水戸・ダム・大建築から再開まで	公益財団法人土木学会 土木広報センター 太田記念美術館	マニア向け			○				
64	土木コレクション2019 「TOKYO DESIGN FROM 1964-TO 過去から未来、新しいTOKYOへ」	土木学会	マニア向け					△		
65	「令和初の歴史ヒストリー 土木遺産探検の旅・台湾の歴史遺産を訪ねる 八田與一 烏山頭ダム施設から九份。レトロな鉄道遺産など体験!」のご案内	土木学会	マニア向け			○				
66	「橋をつくってみよう」(ストローブリッジ)	商船工業高等専門学校	小中学生			○				
67	「ボール紙で作る橋コンテスト」	国総研	小中学生			○		○		
68	2019年度 小中学生対象夏休み土木実験教室	(公社)土木学会関西支部	小中学生			○				
69	地質観本館「ガイドツアー&体験型実験」	地質観本館センター	マニア向け	○		△				
70	土木実験教室in松江	公益財団法人土木学会中国支部	小中学生							
71	夏休み土木実験教室『コンクリートはどうして固まるの?いろんなコンクリートを作ってみよう!』	公益財団法人土木学会中国支部	小中学生			○				
72	夏のリコチャレ2018「土木ってなんだろう? わたしたちのくらしを支えるしくみを見て、知って、体験しよう!」	(株)建設技術研究所	小中学生	○						

(2) イベントの分析方法

a) 「主催者」による分類

調査対象のイベントにおいて、主催者に着目し、官庁、公共民間企業、民間企業、法人団体、個人団体、高校・大学の6項目に分類する。「主催者」の定義は表-2に示す。

表-2 「主催者」の定義

名称	定義
官庁	国土交通省などの機関
公共民間企業	独立行政法人などの機関
民間企業	民間企業に属する機関
法人団体	公益社団法人や一般社団法人などの機関
個人・団体	民間企業に属さない機関
高校・大学	教育機関

b) 「対象者」による分類

調査対象のイベントにおいて、対象者に注目し、12項目に分類する。「対象者」の定義は表-3に示す。

表-3 「対象者」の定義

名称	定義
小中学生	小学生・中学生
高校生(一般)	土木科系以外の高校生
高校生(土木)	土木科系の高校生
大学生(一般)	土木系以外の学科の大学生
大学生(土木)	土木系の学科の大学生
市民(一般)	特定の地域を対象としない市民
市民(地域限定)	特定の地域を対象とする市民
マニア向け	土木が好きな市民
同業者・関係者向け	土木系の同業者や、関係者
会社広報・宣伝	会社や団体の活動報告や広報活動
工事・事業広報	特定の工事又は事業に対する広報活動
対象者なし	上記にあてはまらないもの 主な対象者がないと思われるイベント

c) 「開催内容」による分類

調査対象のイベントにおいて、開催内容に注目し、8項目に分類する。「開催内容」の定義は表-4に示す。

表-4 「開催内容」の定義

名称	定義
座学	主に講演者と受講者がいる企画
体験	主に土木に対する作業を体験する企画
実験	主に土木に対する実験を行う企画
見学会	主に施設や現場の見学を行う企画
フィールドワーク	主に街に出て、そこでしか学べない内容について学ぶ企画
ポスター・マップ	主に、ポスターやマップを使い、配布・掲示する企画
情報発信	主にテレビやWeb、YouTubeなどを利用した企画
商品	主に土木グッズの作成・販売等を行う企画

3. イベントにおける分析結果

(1) 「主催者」の分析

主催者における分析結果を図-1に示す。

どの機関・団体においても、積極的に広報イベントを開催していることがわかる。

また、法人団体の21件のうち、16件が土木学会の主催したイベントである。

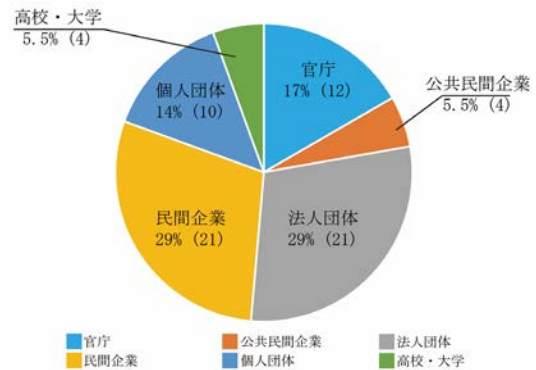


図-1 「主催者」の分析

(2) 「対象者」の分析

対象者における分析結果を図-2に示す。

小中学生へのイベントが31%と最も多いのに比較し、高校生(土木系)、大学生(土木系)のイベントがそれぞれ4%と少ない。また、土木系以外の高校生(一般)、大学生(一般)を対象としたイベントが行われていない。

市民(一般)、市民(地域限定)といった市民向けのイベントが12%と少ないのに対し、マニア向けや、関係者・同業者、会社広報、工事・事業広報などの、主催者にとって、身内向けに行っているイベントが48%を占めている。

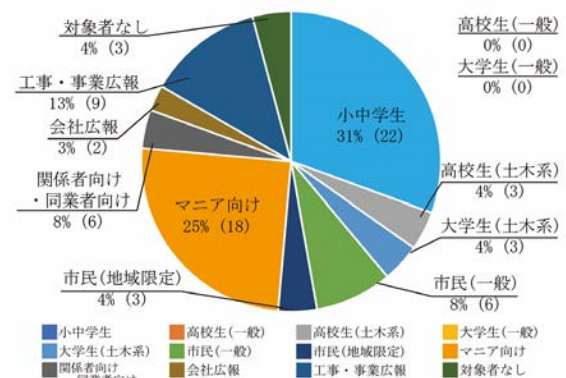


図-2 「対象者」の分析

(3) 「開催内容」の分析

開催内容における分析結果を図-3に示す。

座学、体験、実験、見学会、フィールドワークは、主催者側と対象者が実際に交流しながら行う「対面型」のイベントが48.5%と約半数を占める。

また、テレビやYouTubeなどの情報発信の32%に加え、ポスター・マップ、商品・アイテムといった一歩的に情報を発信するだけのイベントが残りの半分を占めている。

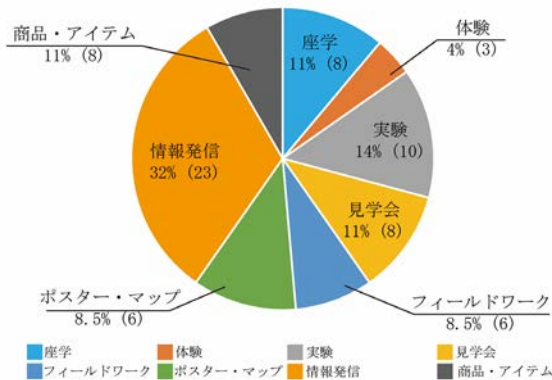


図-3 「開催方法」の分析

(4) 「主催者」と「対象者」の分析

主催者と対象者の割合を図-4にまとめる。

民間企業は、小中学生や市民、工事・事業広報に対するイベントが多いという特徴がみられる。

それに対し、法人団体は、個人・団体と連動し、小中学生とマニア向けに行っているイベントが多い。

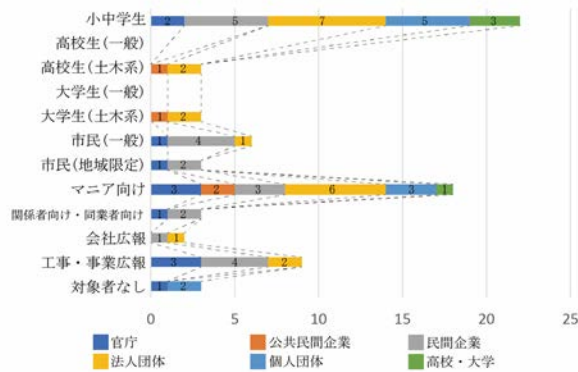


図-4 「対象者」別による「主催者」の割合

(4) 広報イベントの現状のまとめ

開催されている広報イベントにおいて、具体的な「対象者」を定めた広報イベントが行われていない傾向にある。また、小中学生を含む家族連れや、マニア向け、関係者・同業者向けなどの同業他社への認知などの方向への広報活動が多く、特定の対象者を狙っての広報活動が行われていないということがわかった。

高校生や大学生などの次世代を担う人材をターゲットとした広報イベントが少ないことが課題として挙げられる。

3. 高校生の土木工学への認知度

(1) 高校生向けアンケートの実施

実際に高校生のドボクへの認知度についてアンケートを行った。日本大学理工学部が開催した高校生(一般)及び、その保護者を対象とした広報イベントである「入試フォーラム」(図-5)と、日本大学の付属高校に在籍する高校生(一般)を対象とした広報イベントである「付属生のためのオープンキャンパス」(図-6)に会場した方にGoogleフォームを利用したアンケート調査を行った。35件、37件の回答結果が集まった。



図-5 入試フォーラムの様子



図-6 付属生のオープンキャンパスの様子

(2) アンケート結果及び考察

a) 土木工学の認知度

土木工学という分野を知っていましたか?という質問に対する結果を図-7に、ドボクは何を学ぶところか知っていますか?という質問に対する結果を図-8に示す。

入試フォーラムでは、知っていたと回答した人が91.4%、付属生のオープンキャンパスでは、86.5%となり、各イベントでの差はみられなかった。

ドボクは何を学ぶところか知っていますか?という質問に対して、詳しく知っている、まあまあ知っていると回答している人は60%及び、51%と減少していることから、「土木」という単語は知っているが、内容は理解されていない現状であるといえる。

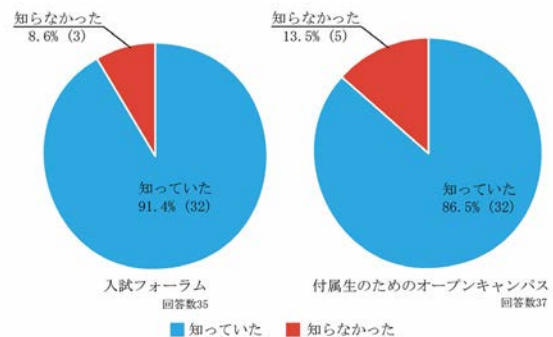


図-7 土木工学という分野があることを知っていましたか?

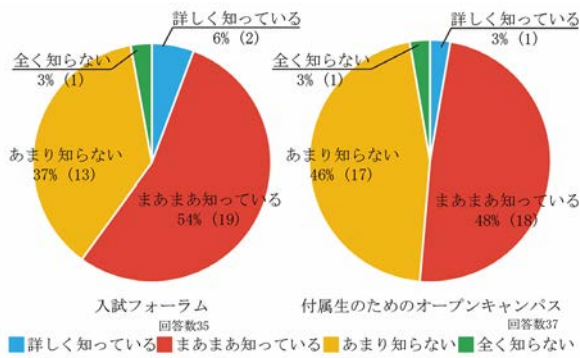


図-8 ドボクは何を学ぶところか知っていますか？

b) ドボクのイメージ

ドボクは何を学ぶところか知っていますか？土木にはどのような仕事があるか知っていますか？という質問に対し、あまり知らない・全く知らないと回答した人にドボクのイメージを教えてください。という質問に対し、「作業、力仕事、工事現場の人」などのキーワードが挙げられた。

c) 印象に残ったブース

次に、土木工学科のブースを見て印象に残ったものは何ですか？という質問に対する結果を図-7に示す。

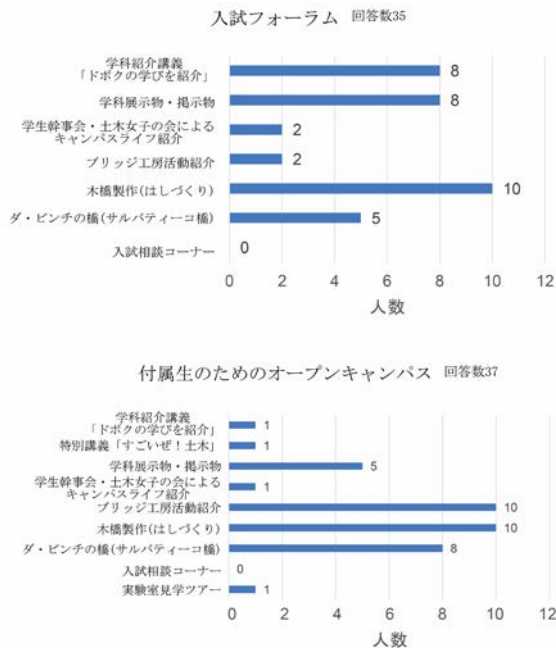


図-7 土木工学科のブースを見て印象に残ったものは何ですか？

どちらのイベントでも、木橋製作(はしづくり)や、ダ・ビンチの橋(サルバティエーコ橋)といった「体験」のブースに回答が集まった。

学科紹介講義において、「入試フォーラム」と「付属生のためのオープンキャンパス」で7件の差が生まれた。これは、同じ高校生(一般)を対象としていても、「入試フォーラム」に参加した高校生は、「ドボクをある程度

理解し、どこの大学の土木工学科が良いのか」を判断しに来ているのに対し、「付属生のためのオープンキャンパス」に参加した高校生は、「どの学科が良いのか」を判断しているという目的の違いが表れている。

c) 印象に残ったブース

今後、どのような土木イベントがあったら参加したいですか。あてはまるものを2つ選択してください。という質問の回答結果を図-8に示す。

どちらのイベントにおいても、木材を使って実際に人が渡れる橋を組み立てる、自分で作った模型がどれだけの重さに耐えられるのかの実験といった「体験」、「実験」についての項目に回答をしている。

モノづくりや、まち歩き、模型づくりといったイベントに対する興味が高いということがわかった。

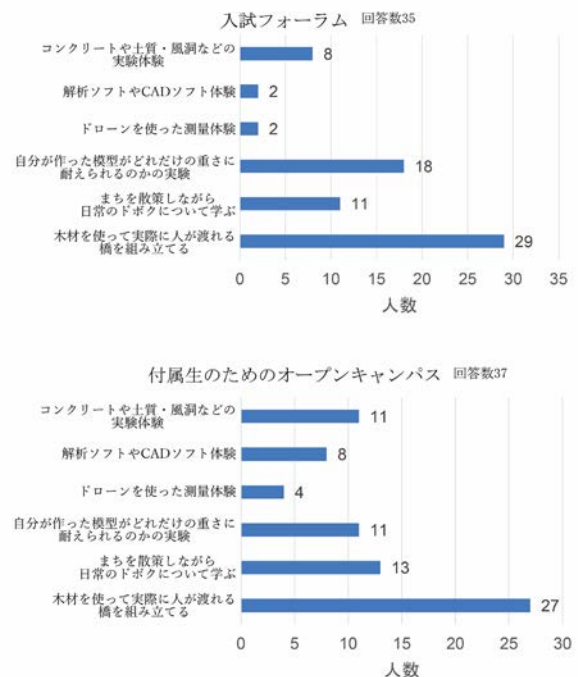


図-8 今後、どのような土木イベントがあったら参加したいですか。あてはまるものを2つ選択してください。

d) イベント参加者の感想

土木工学科のブースにきた感想や、もっと知りたかったことなどがあれば入力してくださいという質問に対し、「最初のイメージは堅いイメージだったけれど、楽しそうだなと思いました。」、「ドボクのイメージが変わって、思っていたよりも面白かった。」といった感想が挙げられた。

高校生はドボクについて「興味が無い」のではなく、ドボクについて「知る機会がない」という現状にあるといえる。

4. 高校生を対象としたイベントの方向性

(1) 今後のイベントの方向性

高校生は「ドボク」という単語は知っているものの、実際にドボクでは何を学ぶことができるのか将来の職業像について理解していない。しかし、イベント参加後に得られたプラスに変更したイメージから、高校生はドボクについて「興味がない」のではなく、ドボクについて「知る機会がない」という現状が問題であると感じる。これは、大学を選ぶうえで、「建築」と並び、「ドボク」という分野があるものの、高校の進路指導の先生や、一般市民に対して、具体的に「ドボクの世界」がどのようなものか伝わっていない。

高校生がドボクを理解するためには、座学のような講義ではなく、ドボクのクリエイティブなことを体験させてあげることが重要である。つまり、「設計」や「モノをつくる」といった高校生のニーズに合わせた魅力を引き出すことが重要である。

(2) イベントの提案

高校生のニーズに対応したイベントについて提案をする。(表-5)

表-5 イベントの提案

分類	種別	項目	時間	費用	条件
散策	歩く	まちの中のはし・みち・まちを歩きながら説明するツアー(図-9)	2時間	☆	ガイド
	撮影	まちの中のドボクを写真撮影するツアー	2時間	☆	ガイド
	聞く	まちの中のドボクの歴史を聞きながら歩くツアー	2時間	☆	ガイド
模型	設計	紙で橋をつくってみよう	1時間	☆	工作室
	製作	軽量なステンペーパーで5kgを支えてみよう(図-10)	1時間	☆	工作室
	加工	割りばしで橋をつくってみよう	3時間	☆	工作室
ソフト	CAD	橋の図面を作成してみよう	1日	☆	PC室
	CG	モデリングソフトを使ってMyBridgeを描いてみよう	1日	☆	PC室
モノづくり	解析	橋に生じる力を見てみよう	1日	☆	PC室
	設計	ベンチの形状を考えて、モデリングしてみよう	1日	☆	PC室
	解析	計算して強度を確認しながら設計図を描いてみよう	1日	☆	PC室
橋づくり	製作	橋の構造を利用したベンチやベッドをつくらう	1日	★	工作室
	設計	橋の設計をしてみよう(CAD+模型+解析)	10日間	★	PC室
	加工	橋のパーツづくり(調達+加工)	5日間	★★★	工作室
研究	組立	7mの木橋(トラス橋・アーチ橋)を組立てよう(図-11)	20分	★	屋外
	組立	木組みの橋(サルパティール橋)を組立てよう(図-12)	3時間	★	屋外
	調査	研究の流れと世界の橋のかたちについて学ぶ	2日間	☆	所室
ボランティア	解析	橋の構造の特性について解析する	2日間	☆	PC室
	実験	材料の強度(弱軸、橋軸)に関する実験	2日間	☆	実験室
	発表	研究体験(調査・解析・実験)と発表スキルを磨く	2日間	☆	所室
	橋	橋の維持管理と清掃のボランティア(図-13)	3時間	★	対象地
ボランティア	海岸	浜辺のマイクロプラスチックの清掃	3時間	☆	対象地
	駅	公共空間(駅・道・公園)周辺のごみの回収	3時間	☆	対象地

☆: ~1万円, ★: 1万~10万円

散策などのフィールドワーク型の「体験」を行うことで、「座学」のような講義では伝わりづらい部分を学ぶことができるだけでなく、ドボクが身近にあるということを学ぶことができる。

模型やモノづくり、橋づくりなどでは、デザインや設計といったドボクのクリエイティブな部分が詰め込まれ

ているため、最も高校生へのニーズがあると考えられる。ソフトや研究といった、将来の職業像について体験してもらいだけでなく、ボランティア活動を通して、ドボクがどれだけ市民の役に立っているかを学ぶことができる。



図-9 まち歩き



図-10 橋の模型づくり



図-11 橋の組み立て(木橋を組み立てよう)



図-12 サルパティール橋



図-13 橋の清掃

5. まとめ

現在、土木学会が行っている広報活動におけるイベントは、具体的な「対象者」を定めた広報活動が行われていない。また、開催されたイベントに関しては、小中学生を含む家族連れや、マニア向け、関係者・同業者向けなどの同業他社への認知などの方向への広報活動が多い。

実際に高校生に「ドボク」について聞いてみると、ドボクという単語は知っていても、実際にドボクでは何を学ぶことができるのか知られていない。しかし、高校生はドボクについて興味がないのではなく、ドボクについて知る機会がない。

「建築」と並び、「ドボク」という分野があるものの高校生だけではなく、高校の進路指導の先生や、一般市民の方に、具体的に「ドボクの世界」がどのようなものか伝わっていない。そこで、デザインや設計、モノをつくるといったドボクのクリエイティブな部分から、高校生のニーズに合ったイベントを開催する必要がある。

参考文献

- 1) 関文夫, 齊藤善孝: ブリッジ工房による実践的な構造教育と維持管理学習の試み, 第31回PCの発展に関するシンポジウム, PC工学会, 2022